

## 文武両道 ～受け継がれてきた精神～

新2，3年生の皆さん、進級おめでとうございます。私は、橋本雅之前校長先生の後任として、今年度から本校に着任した田沼です。よろしくお願ひします。橋本校長先生は、本気で生徒の皆さんと向き合った方でした。本校の「目指す生徒像」には「『本気』で学ぶ生徒」のように「本気」という言葉が入っていたほどです。皆さんにも「本気」という考え方は浸透していると聞いています。それならば「本気」という言葉自体は使わなくても、その考え方を引き継いだ上で、今年度は「目指す生徒像」を「自ら学ぶ生徒・心豊かな生徒・健康な生徒」と定め、教育活動を進めていきたいと考えています。

本気で様々なことに挑戦をしてきた皆さんは、本校に入学以来、富士見中生として成長を重ねてきました。皆さんのよいところ、成長したところを各学年の学年主任の先生にお聞きしました。2年生の霜田先生は「素直、ノリがよい、明るい（とにかく明るく、声が大きい）、歌がすごい」と教えてくれました。3年生の久保先生は「パワーがある、2年生の先生方が掲げた高い理想『返事・あいさつ・後始末』『気づき、考え、行動』を素直に受け止め、行動に移せる人がどんどん増えている」とお話ししてくれました。

令和6年度の始業式にあたり、皆さんのさらなる成長を願ひ、ここでは「文武両道」ということについてお話をします。文武両道というと、一般的には「勉強もスポーツも頑張る」という意味で使われています。そういう視点で見れば、富士見中はすでに文武両道です。昨年度も、学業はいうまでもなく、部活動でも大変素晴らしい成績を収めていました。文武両道は、富士見中学校で受け継がれてきた大切な言葉です。私は今回で3回目の富士見中学校着任です。約10年前も30年前も文武両道でした。もっといえば、今から77年前の昭和22年に本校が開校して以来、多くの卒業生が受け継いできた富士見中学校の精神こそが「文武両道」なのです。皆さんから見て、右手方向の壁面に「文武両道」と書かれた古い額が掲げられているのがみえるはずです。

本校では、文武両道の「文」は授業をはじめとする「学習」、「武」は部活動・クラブ活動・習い事などをはじめとする「自主的な体験活動」と捉えています。それぞれ、成績がよく賞状を多くもらうなど結果を残せばいいのか・・・、決してそうではありません。肝心なのは気持ち・心の部分です。江戸時代初期の学者・中江藤樹は文武両道について、「文と武は元来一徳であって分かつことができない」と述べています。今、紹介した「元来一徳であって」の「徳」が心の部分なのだと考えています。目指す生徒像でいえば「心豊かな生徒」です。授業や部活動などの場面で、3年生の学年で心がけているように『返事・あいさつ・後始末』ができること、自分で考え行動することなどが大切なのです。授業や部活動に本気になって取り組もう、そう思っただけで頑張ることが一番です。結果は（何年後になるかはわかりませんが）あとからついてくるものです。

今日から、新入生226名を加え全校生徒689名で、令和6年度の新生・富士見中学校がスタートします。富士見中学校にとって、今年度がさらなる飛躍の1年となるよう、「師と友と我」みんなで学び、励み、進んでいきましょう。

以上、令和6年度前期始業式の式辞とします。